

国際化学肥料ニュース (2019年6月)

肥料業界の2019年6月動態

- * 6月第1週目のりん安市況が弱気である。東半球では、インドは2件計10万トンDAPの購入を契約した。KIT/IFFCO社がCFR359ドル/トンで5万トン、NFL社もCFR355~359ドル/トンで5万トンである。また、NFL社がCFR350ドル/トン台で10万トンDAPの入札を望んでいる。パキスタンは中国から4.5万トンDAPをCFR370ドル/トン未満の価格で輸入することを契約した。また、中国はFOB350~353ドル/トンでフィリピンに8000トンDAPを輸出した。

西半球では、ブラジルはモロッコからCFR370ドル/トンで15万トン、ロシアからCFR367ドル/トンで8000トン粒状MAPを購入した。アルゼンチンもモロッコから8万トンMAP/DAPを購入した。りん安の国際市況が暫く不振から抜けない見通しである。

- * 中国税関の速報によれば、2019年5月中国の化学肥料輸出量が35.2%増の246.4万トン、金額23.9%増の7億ドル。輸出化学肥料の中に特に今年から輸出関税が撤廃した硫酸加里が2.5万トン、塩化加里2.4万トン、NPK化成肥料10.5万トンとそれぞれ大幅に増えた。

一方、5月の化学肥料輸入量113.6万トン、金額3.62億ドル。特に国内尿素価格の高騰に反映して、尿素6.1万トンも輸入された。塩化加里も90万トン輸入された。

- * 3月から尿素の国際相場が上がり続けている。その理由はアメリカの厳しい制裁で、廉価のイラン産尿素約200~300万トンが国際市場に出回らないこと、中国の環境検査による尿素生産コストと輸出価格の上昇、インドの立て続く尿素入札など、国際貿易に供給できる尿素の数量が不足しているためである。3月初めに比べ、6月中旬の尿素価格が約30~40ドル/トン上がった。

また、インドが6月26日に再度尿素の国際入札を行う予定で、7月初め開札、8月上旬まで納品という噂がある。事実とすれば、尿素の国際価格がさらに上がる見通しである。

- * 6月24日、インドMMTC社が尿素の国際入札を発表した。予定契約数量不定、7月1日開札、8月16日まで輸出されるという条件である。これは今年第4回目である。すでに6月初めからインドの尿素入札の噂があり、尿素の国際価格がじわじわ上がってきた。本件発表の翌日、尿素の国際価格がさらに3~5ドル/トン上がった。

今回もイラン産尿素を応札から排除して、ほぼ全量が中東から調達する可能性が高い。

- * 7月1日、インドMMTC社の尿素国際入札が開札された。17社応札、応札数量306万トン、最低応札価格はDrey Moor社のCFR東海岸292.63ドル/トン、Aries社のCFR西海岸295.97ドル/トンである。前回（5月1日開札）より東海岸が7ドル/トン、西海岸が19ドル/トン上がった。インド側は100～150万トン契約する噂がある。
- * インド農薬と化学肥料省大臣Sadananda Gowda氏はインド国会にインド政府が有機肥料の利用を促進し、化学肥料使用量が10%以上減らす計画を策定し、推進すると証言した。その内容は都市部から収集した生ごみを堆肥化して農家に使ってもらうため、新たに補助金を出す。また、尿素についても輸入量を減らすために閉鎖された5ヶ所の尿素工場を再開させるほか、農家にも尿素の使用量を減らすように指導するとも述べた。
- * 中国からの資料によれば、今年6月の中国尿素産業が好調であった。平均稼働率が16.13%増の74.92%に上昇し、生産量も5.21%増の445万トンである。輸出も順調で、輸出量が約20万トンである。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 6月4日、ロシアのEuroChem社はブラジルMinas Gerais州Araguari市にBB肥料工場を完成し、生産開始したと発表した。生産能力は6000トン/日、これはEuroChem社がブラジルに3か所目の肥料工場である。
また、6月7日、EuroChem社はロシアのKingiseppに建設しているアンモニア合成装置を完成し、稼働始めたと発表した。当該プロジェクトは2015年から着工し、投資額10億ドル、アンモニア生産能力100万トン/年、ヨーロッパ最大のアンモニア合成装置である。生産量の75%は自社窒素肥料工場とリン安工場に供給し、残り25%は外販である。

その他

- * オランダのOCI社は中東アブダビ国家石油(ADNOC)と協力して、窒素肥料輸出商社を合弁で設立すると発表した。持ち株の割合はOCI社が58%、ADNOC社が42%、UAE(アラブ首長国)産尿素の輸出を担当し、世界最大の尿素輸出商社になる。
- * 6月17日、中国の大手肥料メーカー河池化工が裁判所に破産を申請した。河池化工は1976年創立した元国営企業、生産能力34万トン尿素と20万トン化成肥料、広西省2

番目の尿素と化成肥料メーカーである。業績不振のため、2016年に民間企業に売却したが、業績が回復できず、倒産に至った。

中国政府の化学肥料抑制と環境規制などの政策に、原料と人件費上昇を加え、多くの肥料メーカーが経営難に陥っている。大手メーカーについては、2018年1月31日、広西省最大の肥料メーカー国営企業の柳化グループが倒産、7月18日、同じ国営企業の大化グループも倒産、10月29日兗州魯南化学肥料工場が倒産、11月5日江西省最大の肥料メーカー江西六国化工も倒産した。

- * 6月26日、中国のりん安メーカー開磷と瓮福の2社が正式に合併して、貴州磷化グループを設立すると発表した。開磷と瓮福は共に貴州省にある国営企業で、合併によりりん安などりん酸系肥料生産能力が1000万トン超、中国最大のりん安肥料メーカーになる。

- * EUは肥料に関する法律を改正し、6月25日の官報に掲載された。この法律(FPR)(EU)2019/1009)はEU各国と諸機関が3年間の協議を経て、纏めたものである。2019年7月15日から発効する。最大の改正は「植物用生物刺激物質」を農薬などの植物保護薬品の分野から外し、単独の植物用生物刺激物質分野を設定し、厳しく管理する。